

# 新年明けましておめでとうございます(2026年) — 昨年のふり返りと今年の展望 —

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問  
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。  
\*詳しくはスライド最後をご覧ください

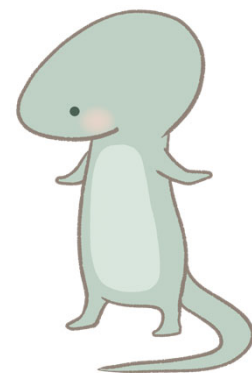
※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会より研究委託を受けて実施されています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。



昨年は大変お世話になりました  
本年もどうぞよろしくお願いいたします



## (新著の紹介)



溝上慎一（編）（2025）. 主体性総論—主体性とは何か、  
なぜこれほど求められるのか— 東信堂  
（2025年12月9日刊行）

- 第1章 主体性論の基礎的視座
- 第2章 「主体性が立ち上がる」から「主体性を立ち上げる」へ
- 第3章 加速する文科省の主体性施策  
——“教える”と“学ぶ”のバランスを求めて
- 第4章 なぜ主体性が求められるのか

## 第4回桐蔭学園溝上研究室セミナー（2025年12月）







第3回桐蔭学園溝上研究室セミナー@伊豆高原（2025年6月）





桐蔭学園幼稚園「芋掘り」（2025年10月）



# 桐蔭学園中等教育学校 探究発表会やり直し（2025年7月）



No347

## 桐蔭学園中等教育学校 探究発表会やり直し&溝上の講演等 イベントのご案内

溝上慎一  
(桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授)

動画チャンネル「溝上慎一の教育論」

(中等3年生)





# 桐蔭学園中等教育学校（中等3年生） AL型授業の基礎確認





## 横浜市立都田西小学校の皆さま授業見学・懇談





# 桐蔭学園小学校研修 パフォーマンス課題の総チェック





# 桐蔭学園教職員幹部研修

(2025年7月)



阿部幸恵教授（東京医科大学）



# 桐蔭学園職員幹部研修

(2025年12月)





# 桐蔭学園中等教育学校の高大連携



## アカデミックキャンプ（2025年8月）

- 福田公子先生（東京都立大学准教授）
- 小塩真司先生（早稲田大学教授）
- 菊水健史先生（麻布大学教授）ほか計8名



## 人文社会科学リサーチ演習（通年）

- 矢野眞和先生（東京工業大学名誉教授、もと東大教授）
- 岡田有司先生（東京都立大学准教授）

2025年9月

島根大学  
松江市

連携

人材育成などを目指し  
島根大学と桐蔭学園が協定

国立大学法人島根大学と学校法人桐蔭学園  
包括的連携に関する協定締結式

学校法人 桐蔭学園

神奈川県にある幼稚園から  
大学院を持つ総合学園



# 桐蔭学園高校ラグビー部 花園全国優勝2連覇（5回目優勝）



2025年1月7日  
@花園決勝戦





# 桐蔭横浜大学女子柔道部 全日本インカレ2部優勝！

2025年6月@日本武道館







(横浜市) 青葉区民マラソンで桐蔭キャラクター「きりりん」が走る！  
(2025年11月)





桐蔭学園小学校チアダンス部がランナーを応援してくれました

# 次期学習指導要領改訂審議

（文部科学省初等中等教育局）

- 教育課程部会
- 教育課程企画特別部会
- 産業教育WG



**No333**

文科省サポートマガジン『みるみる』が刊行！  
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」  
は全体－協働－個別のバランスの中で実現

そのように言ってくれれば  
実践は進みます！

溝上の解説：5つのポイント

動画チャンネル「溝上慎一の教育論」





『論点整理』（2025年9月25日）

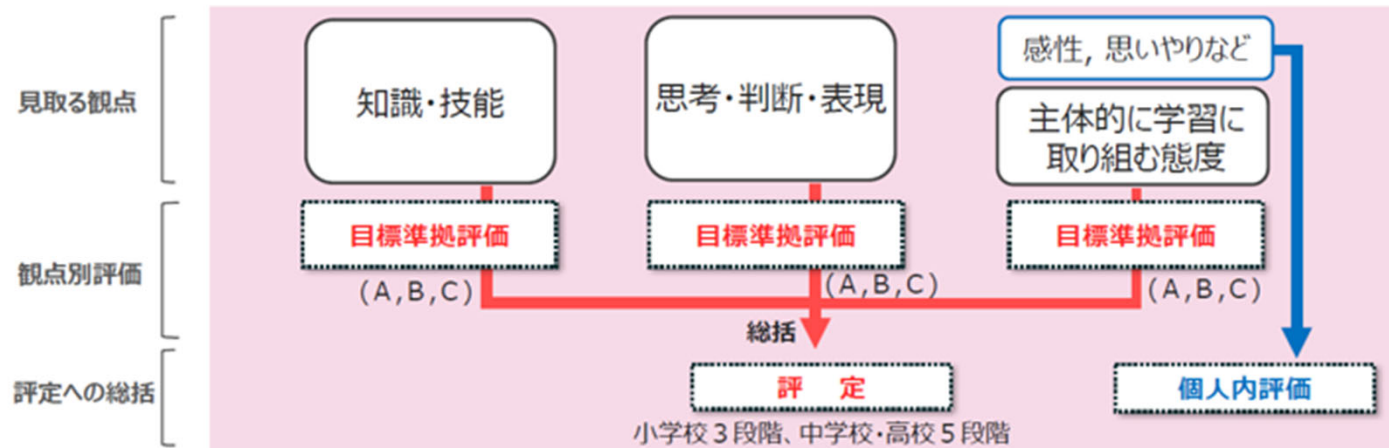




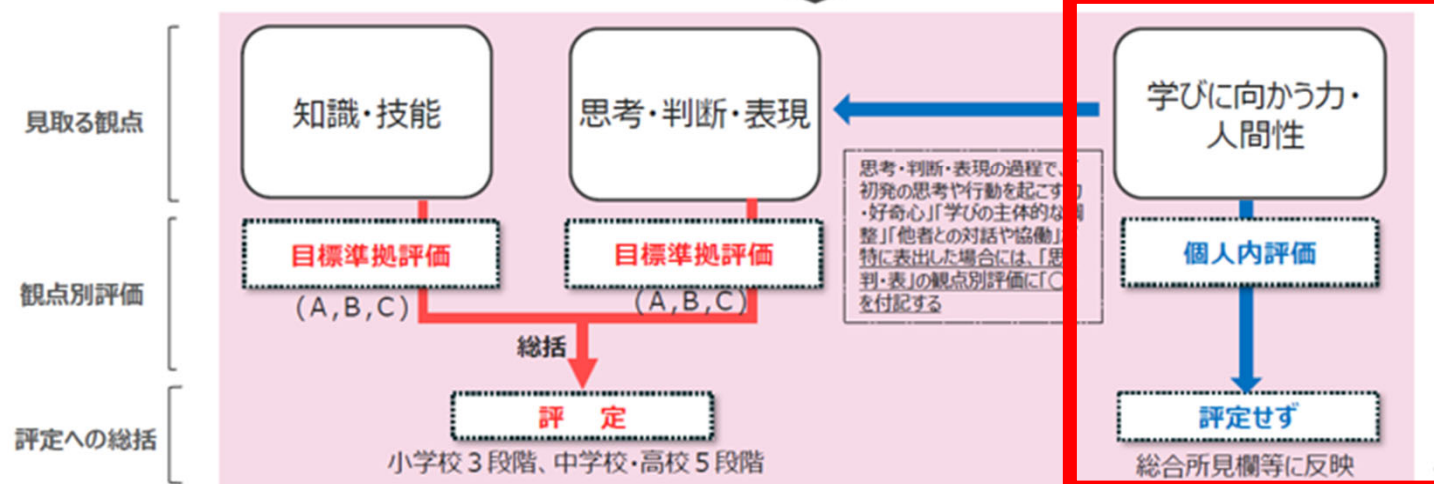
# 新たな観点別評価の方向性

『論点整理』（2025年9月25日）

旧



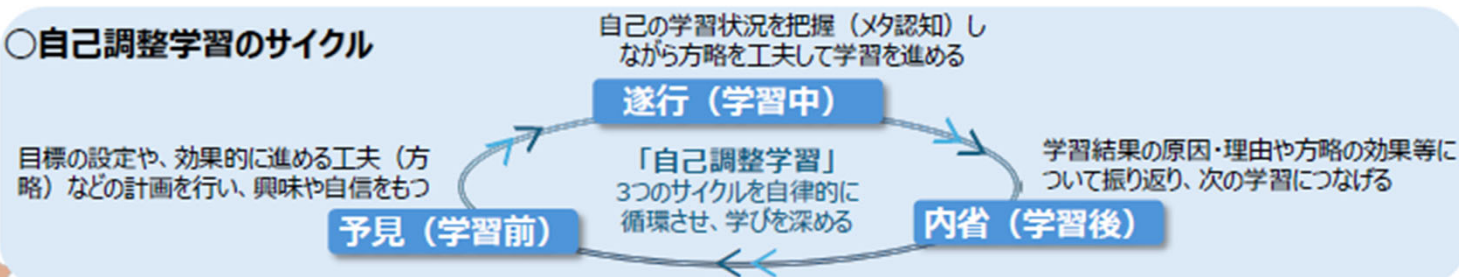
新





# ◆自己調整学習のサイクルや、それを促進する要素等に関する研究上の知見

## ○自己調整学習のサイクル



## ○自己調整学習の効果高める方略の例

参考資料⑧参照

### 動機づけ方略

質の高い学習を開始・継続することができるよう、自らの動機づけ（モチベーション）や感情を整える方略

### 学習方略

学習内容をよりよく理解し、定着させることができるよう学習中の情報処理の方法等を工夫する方略

参考資料⑨参照

### メタ認知的方略

学習方略がうまく働きよりよい学習成果に結びつくよう、自身の学習過程の計画・把握・調整・振り返り等を適切に行う方略

(Usher&Schunk(2018))を基に作成

## ○方略の指導に関する類型

※研究では、教師による方略の直接的な教授の有効性が示されている

### 直接的な指導

「～しましょう」等の形で発揮させたい方略を直接的に指導

### 間接的な指導

「～したいときはどうすればよいか」等の形で、方略を間接的に気づかせる

### 学習環境設定の工夫

教師による指導は行わず、子供自身が自然と方略を工夫するような学習環境を整える

(Dignath et al. (2022))を基に作成

# ◆子供が自ら学習を調整しながら学びを進めるための学校現場の実践例 (単元内自由進度学習を含む、自治体や学校の事例等を基に記載)

参考資料⑩参照

## 単元や題材の設計

- 子供達が意欲的に取り組むことができ、全ての子供が育成したい資質・能力を育むことができるような単元や題材の設計
- 単元全体の目標や内容、流れを子どもと共有することで学習の見通しの明確化
- 個別・協働・一斉といった学習活動の効果的な配置

## 多様な学習材料の提供 足場かけの準備

- 子どもが自分の力で学ぶことができ、自らにとって学びやすいものを選択できる多様な材料の提供
- 子どもの特性や学習スタイルに応じて選択できる多様な学習材料の提供
- 学習の見通しを持つことや学習の進捗状況の把握、学習の振り返りがしやすい学習材の開発 等

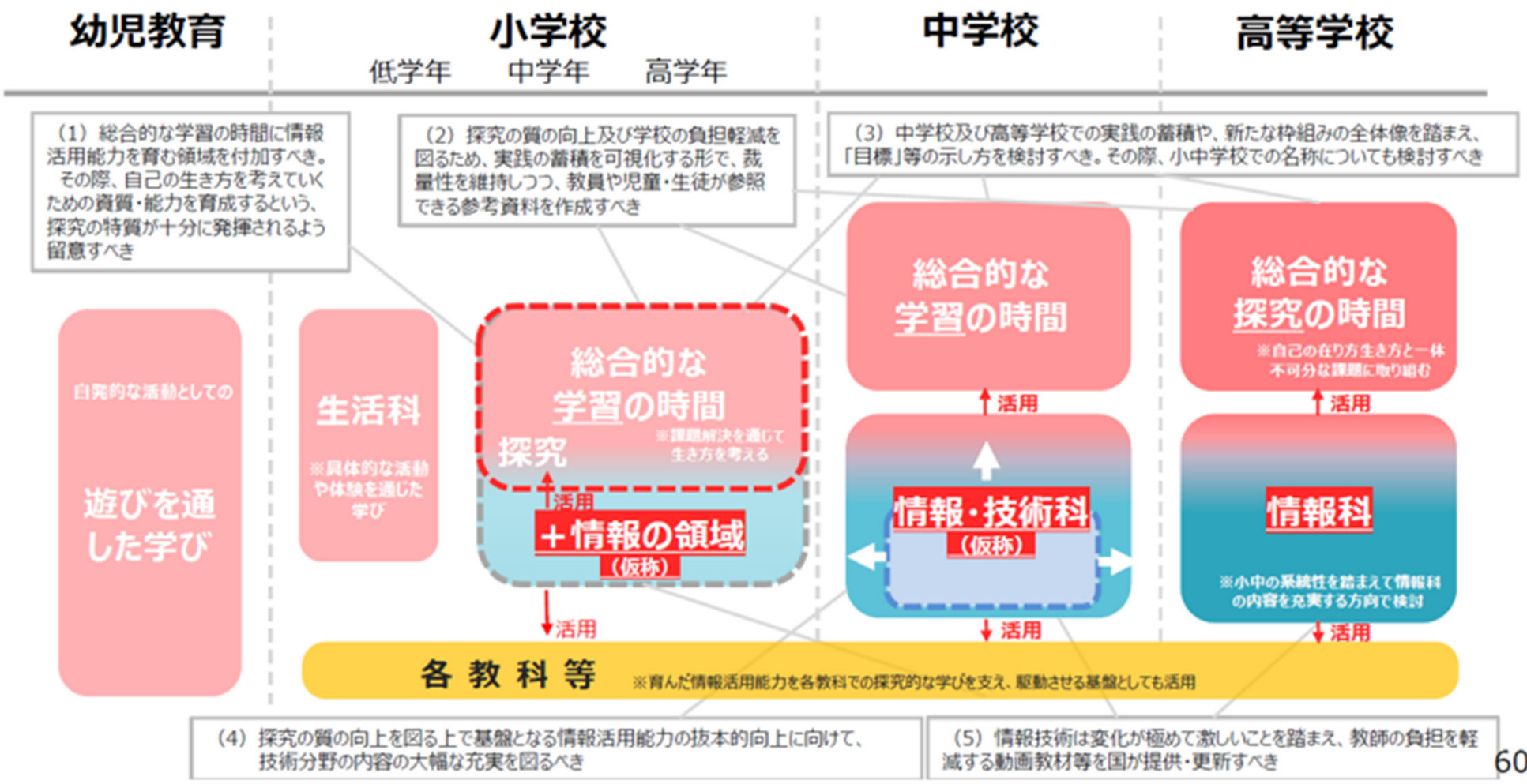
## 学習環境の整備

- 安心して学習に取り組める空間づくり
- デジタル学習基盤も活用しながら、生徒間や外部との協働を通じた学びの深まりや、生徒自身が学習に必要な情報に必要なタイミングでのアクセスを可能とする 環境づくり 等



# 情報活用能力を基盤として総合的な学習の質を高める

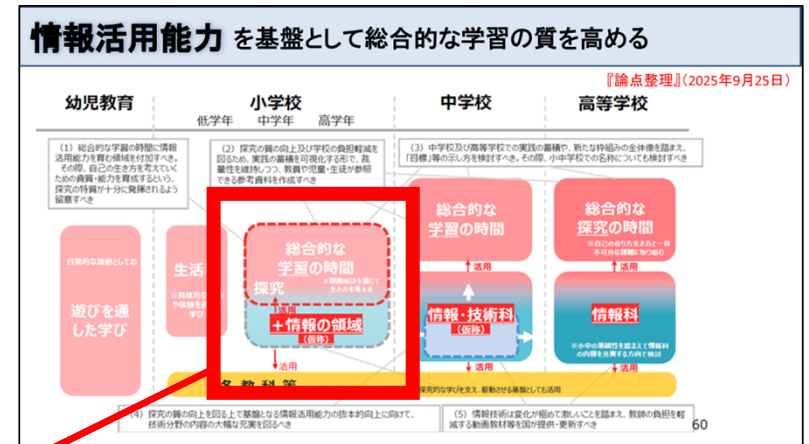
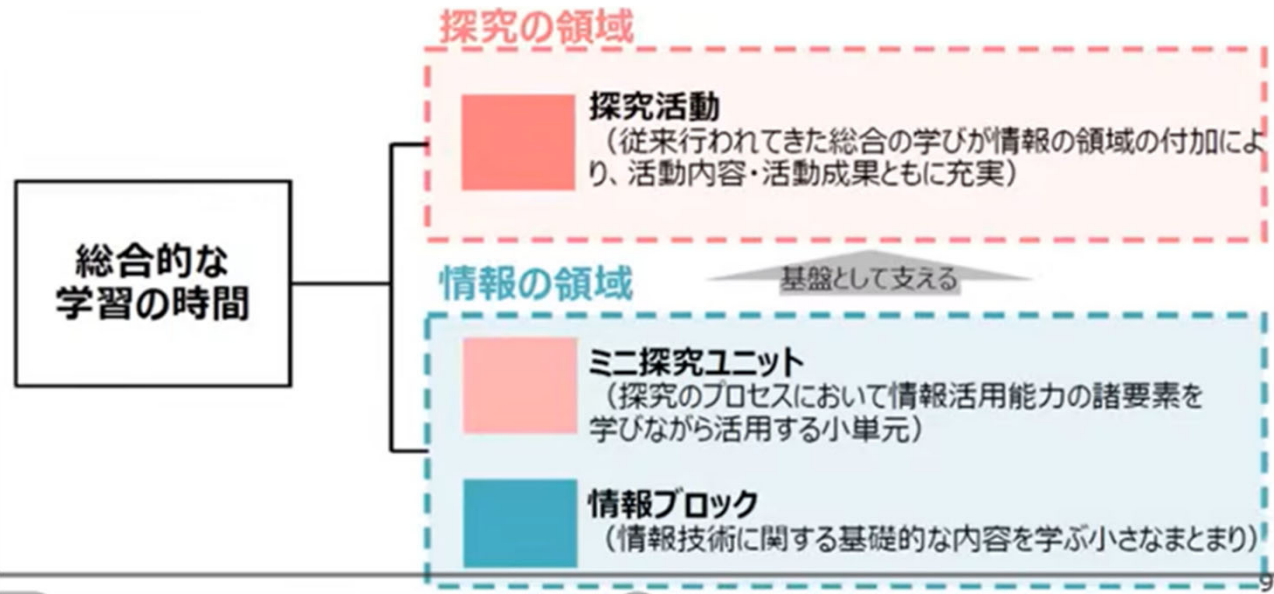
『論点整理』（2025年9月25日）





## ミニ探究ユニット の創設(案)

『生活・総合WG（第2回）』（2025年11月10日）



# 特活WGで自己の生き方・在り方？

『特活WG』（2025年11月17日）

教育課程全体の中で「**道徳**」・「**総合**」・「**特活**」が果たす役割について（イメージ）

11.17特活WG

配布資料

※ 関係WGでの議論を踏まえて修正することが前提

我が国の学校教育における道徳科、総合的な学習・探究の時間、特別活動による学びは…

- 多様化・デジタル化が進み、予測困難な時代にあつて、AI時代にとりわけ重要となる、よりよく生きる基盤としての道徳性を養うとともに、「自らの人生を舵取りすることができる力」や「民主的で持続可能な社会の創り手」の育成に向け、「好き」や「得意」、社会を形成する当事者としての在りようを含む「**自己の生き方・在り方**」と向き合い、**思索していく機会を公教育として保障する役割**を果たすものと整理できるのではないかと。
- また、知識の系統性を特徴とする各教科とは異なる「**自己の生き方・在り方**」の思索という特質は、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るかに関わる「**学びに向かう力・人間性等**」と密接な関わりを有していることから、**各教科の学びを通じて「学びに向かう力・人間性等」を育む基盤としての役割**を担うものと整理できるのではないかと。





# 産業教育WGで 課題研究の中に総合探究

## 議題（１）課題研究の在り方

『産業教育WG』  
(2025年12月16日)

### ①探究的・実践的な学びの積み重ねを意識した課題研究の今後の在り方

- 「課題研究」は、総合的な探究（学習）の時間（平成10年告示～）よりも早く、平成元年告示において専門学科における探究的な科目として設置された。
- 平成10年告示において設置された「総合的な学習の時間」が、その取組の深まりと同時に内容の充実を図ってきた一方で、「課題研究」については、約30年が経過した現行学習指導要領においてもその規定内容に大きな変化がない状況。
- 各学校の創意工夫により、探究的な学びが進められている一方で、「まとめ・表現」については、計画の実装や実行に重点が置かれ、「課題の設定」等の他のプロセスが曖昧となっている事例も見受けられる。変化の激しい社会において、前例にとらわれず市場環境や業態変化に柔軟に 대응していく産業人材の育成に当たっては、「課題の設定」こそ重要。
- こうした観点から、今後、「課題研究」における探究的・実践的な指導をさらに深めていくためには、更なる改善が不可欠となっている。



#### （１）の方向性①

- 次期改訂に向けては、文部科学省が実施してきたマイスター・ハイスクールの事業成果等を踏まえ、**産業界等のステークホルダーと連携を図ることも含め、「課題研究」の抜本的な見直しを図る必要がある。**
- その際、現在のように**〔指導項目〕を示すことはせず、探究課題の設定や指導内容は各学校の特色や実態等に委ねることとし、各教科等横断的な学びや探究的な学習を通して身に付けるべき資質・能力や、産業教育における探究的な学習を行う際の配慮事項を中心とした内容**としてはどうか。
- 「課題研究」は設置時より、学習指導要領解説において、科目の特性から「高学年」、「卒業年次」において履修させることが望ましいとされてきたが、このことが卒業年次のみに履修するとの解釈に繋がり、**探究的・実践的な学びの積み重ねを阻害する要因**となっていると考えられる。



#### （１）の方向性②

- 小学校から「総合的な学習の時間」において探究的な学びを深めてきており、探究的な学びの連続性、積み重ねという視点から、総合的な探究の時間との関連や、特例として総合的な探究の時間を代替することも可能となることも踏まえ、**学習指導要領解説における「課題研究」の履修学年の規定を削除し、学校の実態等に応じて柔軟に教育課程を編成できるようにしてはどうか。**
- その際、**探究的な学びは与えられた課題を探究するのではなく、自己の在り方生き方に関わる課題を自ら発見し、解決していくことが重要**であることに鑑み、例えば、**課題研究の導入段階で実社会・実生活に関わる課題を探究する活動を取り入れること**としてはどうか。

より専門性の高い課題の探究

実社会・実生活における課題の探究  
(自己の在り方・生き方に結び付ける)

# 産業教育WGで**共通教科**を含めてカリキュラム・マネジメント

## 議題（３）専門高校における教育課程の編成の在り方

### ① 共通教科も含めたカリキュラム・マネジメントによる探究的・実践的な学びの積み重ねの在り方

- 産業界では、変化の激しい社会の中で、前例にとらわれず市場環境や業態変化に柔軟に応えられる産業人材の育成が求められている。専門高校においても、こうした人材を育成するため、各学科における専門教科はもちろんのこと、当該専門教科の学びを生きて働く学びとするため、探究的・実践的な学びを充実させることが重要。
- 探究的・実践的な学びは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせることで深い学びに繋がるものであり、したがって、これらを充実させるためには教科等横断的な視点からの**カリキュラム・マネジメントの充実**が重要。

#### ○ 高等学校学習指導要領総則

各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努めるものとする。

- カリキュラム・マネジメントは、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」が重要であるが、**専門高校においては、専門教科を中心とした教育課程が編成され、このことが教科等横断的、総合的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントや資質・能力の育成の意識を弱める原因**となっていると考えられることから、今一度専門高校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方を検討する必要がある。



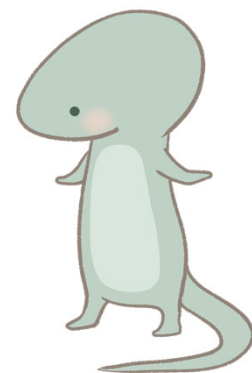
### （３）の方向性

- 議題（１）も踏まえ、専門高校では探究的・実践的な学び、教科等横断的な学びを実現する科目として課題研究等が位置付けられているが、当該科目を**カリキュラム・マネジメントの中核的な科目として位置付け**てはどうか。
- その際、改めて、
  - ・ **学校の教育目標や、地元産業界や地域の実態等も踏まえた目標設定や、自己の在り方生き方につながる課題を設定**すること、
  - ・ **各教科等で身に付けた資質・能力を活かしながら活動に取り組むこと、**
  - ・ 探究・研究活動に当たっては、**全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるようにすること、**などを科目の内容の取扱い等の配慮事項として整理してはどうか。





昨年は大変お世話になりました  
本年もどうぞよろしくお願いいたします



ご視聴有難うございました  
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。  
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

